

令和2年第1回臨時教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年7月29日(水)
午後1時25分～午後3時50分
2. 開催場所 KIホール 1階会議室
3. 出席した委員
- | | |
|---------------|---------|
| 教 育 長 | 新 子 寿 一 |
| 教 育 長 職 務 代 理 | 山 崎 裕 行 |
| 委 員 | 田 中 保 和 |
| 委 員 | 近 藤 温 子 |
| 委 員 | 西 村 弥生子 |
4. 出席した職員
- | | |
|-------------------|-----------------|
| 教 育 監 岡 本 泰 典 | 指 導 課 長 石 田 智 |
| 指 導 主 事 浅 田 千 佐 子 | 指 導 主 事 北 野 典 子 |
| 指 導 主 事 松 浦 悠 輔 | 指 導 主 事 大 内 隆 |
| 指 導 主 事 湯 浅 博 文 | |

5. 議事案件

議案第34号 令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： それでは、令和2年第1回臨時教育委員会会議を開催いたします。本日の会議録署名は、近藤委員、どうぞよろしくお願いたします。早速ですが、議事のほうに入っております。本日の議案は1件でございます。本日の議案であります教科用図書の採択につきましては、先日の第7回定例教育委員会会議に引き続きの審議となっております。委員及び関係課で進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく、お願をいたします。まず、この会議の公開についてでございますが、採択結果のみは本日、議事録の公開は9月1日以降といたします。よろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： はい。そのようにさせていただきます。それでは早速議事に入っております。まずは英語のほうからでございます。松浦指導主事、よろしくお願いたします。

松浦指導主事： それでは、外国語について説明いたします。外国語につきましては、全部で6者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、各者とも、外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取り上げられています。開隆堂1年生の教科書25ページをご覧ください。柏教研からは「会話文の発話者の名前を文字で表すのではなく、顔のイラストで表されている」という意見があります。次に「人権の取扱い」ですが、各者とも、教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されたものとなっています。光村図書3年生の教科書42ページをご覧ください。学校からは「被爆者に関するトピックや杉原千畝などの取り扱いがあるのが良い」という意見があります。なお、杉原千畝については、教科書131ページに掲載されております。次に「内容の程度」ですが、各者とも、生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されています。啓林館2年生の教科書8ページをご覧ください。調査員からは「構成に合わせてPart1～3では分かりやすい内容を、Read & Thinkで現実的で深く考える内容を取り扱っている。Part1～3の本文が他社より短く、Reading以外の活動に十分な時間が取れるように工夫されている」という報告があがっています。次に「組織・配列」ですが、各者とも、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されています。教育出版2年生の教科書21ページをご覧ください。調査員からは「組織配列についてはどの学年も系統立てられて配列されている。各セクションにキーになるフレーズが収録されており、新出の表現に焦点が当てられている」という報告があがっています。次に「創意工夫」ですが、各者とも、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されています。三省堂1年生の教科書85ページをご覧ください。学校からは「4技能が1つの単元に組み込まれていて、Drillのところでも更にとくさんの単語を学習出来る」という意見があります。開隆堂1年生の教科書54ページをご覧ください。柏教研からは「各プログラムの導入時がマンガで描かれているので、新しく学ぶ表現がどういう状況で使われるのかが理解しやすく、身近に感じる。」という意見があります。次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、各者とも、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されています。また、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されています。東京書籍3年生の教科書69ページをご覧ください。調査員からは「各ステージの終わりに自己表現的な発展的活動が盛り込まれており、それまでに学習した事項を使い、取り組める内容となっている。内容についても、ライティングやスピーキングのバランスが考えて設定されている」という報告があがっています。最後に「幼小中一貫教育の観点」からですが、各者とも、中学校への接続を意識した内容が盛り込まれています。啓林館1年生の教科書9ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「1年冒頭の『Let's start』などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている」と書

かれています。開隆堂1年生の8ページから20ページをご覧ください。柏教研から「中1のGet ReadyとProgram0で小学校英語の復習にページを割いているところがいい」という意見があります。最後に、選定委員会の審議について報告します。まず、本年度より小学校での英語が教科化され、それを受けて作られる初めての教科書であるという視点で選定していく必要があるという意見が出ました。その後の議論では調査員、中学校、柏教研の資料の中でも意見が割れているとの指摘がありました。開隆堂、啓林館、教育出版、東京書籍については、人権の視点にたった教材があるとの意見がありました。開隆堂については、現在小学校で使用している教科書であり、小学校と単語や構成に共通点があるため、小中の繋がりを重視するならば良いのではとの意見がでました。啓林館の教科書については、本文がシンプルで授業に活動を取り入れやすいとの意見がありました。以上で、外国語についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございました。今、事務局の方から、説明ありましたが、いかがでしょうか。

田中委員： よろしいでしょうか。

新子教育長： 田中委員、お願いします。

田中委員： 今、説明あったところ、私も同じような意見のところがあるんですけども、まず、東京書籍、東書でいいますと、内容もけっこう豊富で、練習問題も多くて、いいかなと思うんです。ただ、他の、東書の他の科目、教科もそうなんですけども、若干、形が違ってロングサイズになっているんですね。それが、生徒にとって使いやすいかどうかというのは、ちょっと気になるところです。それから、開隆堂については、小学校との繋がり、どこの会社もそうなんですけども、小中の繋がりを考えて作られてるんですけども、その中でも特にページ数も多く割かれているということで、繋がりにはいいんじゃないかなというふうに思います。さきほどの説明にもありましたように、マンガを使ってうまく説明して、子どもたちにはわかりやすいかなというふうな思いがします。教育出版については、各レッスンの表紙の写真とか生徒に興味付けをうまくつけさせて、最後の巻末のアクティビティプラスでさらに発展させるというところがいいかなと思います。啓林館につきましては、これは内容がおもしろく親しみやすい表現で、構成されていて生徒にとっても理解しやすいんじゃないかな、また、小学校からの繋がりもうまくやっているんじゃないかな思い、小学校の繋がりという意味では、開隆堂、啓林館あたりかなと考えております。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。山崎委員、お願いします。

山崎教育長職務代理： まず、開隆堂ですが、今の担当からもお話がありましたが、学校からの意見にもありましたが、現在、開隆堂を使っている、小学校も開隆堂、繋がりがあってわかりやすいなというのが印象です。それから、指導主事の先生のお話にもありましたが、小学校の復習でゲットレディ、プログラムゼロ、これ13ページ、6時間、十分あって小学校の復習ができるということが特徴だと思います。それから、巻頭の「この教科書で学ぶみなさんへ」というところで、3年間の学習の見通しがつくようになって

ていて随分わかりやすいなと思いました。それから、辞書を引くことに慣れてほしいというわけですが、1年で引く、2年で読む、3年で使いこなす、辞書について巻頭部に出てきます。それから、巻末の資料でアクションカード、これを切り離してカードとして活用できる、英語の苦手な生徒にも随分有効だと思いました。繋がりのあるわかりやすい教科書だというのが印象です。教育出版は教研の方から出ておりましたが、中1のレッスン1からいきなり長い英文がでてくるものですからちょっと苦手な生徒にはどうだろうなあというのが印象です。それから、巻頭の「この教科書で英語を学ぶみなさんへ」という目次がありますが、せっかく掲示されているのにちょっとわかりにくいなあというのが印象でした。それから、1年生で、一般動詞、レッスン3のグラマーに出てきますが、be動詞はわざわざ出てこないんですね。開隆堂さんですと、プログラム1にbe動詞、プログラム2に一般動詞というふうに分けて出てくるものですから、これはちょっと難しいかなという感じがしました。啓林館の方は、1年の最初に小学校の復習としてクラスルームイングリッシュ、レッツスタート1から7、これ随分ページ数をとってアルファベットや、数字、単語もあって、基礎からの学びなおしのように、苦手な生徒にもいいだろうなと思いました。付録のCan do list、1年、2年、3年ともあるんですが、随分難しい日本語で書かれていますんでチェックするのがなかなか難しいなというのが印象です。東書ですが、東書さんの方は目次が「学習の見通しを立てよう」で、1年間のゴールとキーセンテンスが明示されていてこれも見通しが立てやすいなと思いました。それから、学期末のステージの終わりのステージアップアクティビティが聞く、読む、話す、書く、発表する、こういう活動をしっかり取り入れて、なかなか充実しているなと思いました。巻末のCan do listも大変チェックしやすいなと思いました。ただ、東書さんはいつも大判なので、A4の大判なので、他の教科書と比べて大きいものですから、ちょっと大きいな、重たいなという感じがあります。三省堂さんは、目次あるいはこの教科書の仕組み、最初の方を見たんですが、なかなかややこしいなと、見通し持ちにくいなあというのが印象です、それから、中1の最初のクラスルームイングリッシュ、スターターは、小学校での学びを生かし短い英文を聞いたり話したりする連携のページ、こういうのが苦手な子にはちょっと内容としては難しいのではないかなというのが、そのことを思いました。光村さんは、1年の最初、導入教材としてレッツビーフレンズ、基礎からわかりやすく充実しているなと思いました。それから、各ユニットの最初により具体的な目標や学習する部分が示されていて、学習を終えたあとにはゴールでまとめの活動に取り組むようになっていて、また振り返りのコーナーもあって、なかなか丁寧に組まれているなど、先生は指導の流れがわかりやすくて、授業がしやすいなと、こういう印象を持ちました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。近藤委員、お願いします。

近藤委員： はい。啓林館、予習したり家庭で教えたりがしやすい構成になっています。

QRコードはそのページの内容がすぐ出てくるようになっていたので便利でした。本文が

少なめで音読の宿題の負担軽くていいなと思いました。開隆堂、プログラム最初に日常の 2 コママンガがあり、絵とセットでの会話文が楽しく覚えやすそうです。文法の英語のしくみのページは、色分けがありわかりやすくなっていました。ページ下に音読の回数チェックがあるのは、便利だと思いました。学期ごとにあるアワープロジェクトが総合的な力がつくようになっていきます。東京書籍、環境、国際問題、防災など、他教科と関連があるものが多く扱われています。学年ごとに 3 回ずつある学び方コーナーでは、英語学習のコツが紹介されていてためになります。2 年生のワードルーム、前置詞の表がわかりやすいなと思いました。以上が候補に挙げたいなと思いました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員、お願いします。

西村委員： はい。どの教科書も色使いが比較的、抑え目の見やすいものでした。東書は大判である分、情報量が多い気もしますが、わかりやすい面もあり、ただ、理解できる子と理解できない子の差が少し大きくなるのでないかなという気がしました。開隆堂は、目次の部分で、学習すべきセンテンスとグラマーがまず示されているので、目次 2 ページ 3 ページ見ただけで 1 年間何を学ぶのかがわかりやすいなと思いました。非常に系統だっている印象でした。啓林館は単元の最後に文法がわかりやすくまとめられていて、勉強のまとめが非常にわかりやすいと感じました。教育出版は、シンプルで見やすく、こちら系統で、少しスッキリしすぎている印象もあり、教える側が難しくないかどうかというのが少し気になりました。光村図書は AI など、話が非常に面白くて興味を引く内容が多かった。さきほどの被爆者のトピックなど、いろんな題材が扱ってあるところが関心の広がりがあるかなと思いました。少し文法の理解はしにくいように感じました。小学校の繋がりからいけば開隆堂の教科書が非常にいいかなという印象を受けました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。事務局の方から、委員の皆様方からご意見いただきました。なかなか絞り込みが難しいというふうな気も感じるんですけども、去年は小学校の使用教科用図書の改定に採択に向けて、外国語についてはかなり話し合いをしていただきまして決定した経緯がございます。選定委員からもでておりましたように、本市が大事にしております幼小中一貫教育、中学校区での教科連携ということで小学校の外国語活動にも中学校の英語担当者、外国語担当者が出向くような研修も行っております。その流れ的なことからいけば、小学校開隆堂を使用しておるということで皆様からの意見も伺いながらということで、流れ的には中学校区での外国語の真意もそれぞれ違ってくると思いますので、そういうふうな繋がりの中では開隆堂の方が、小学校との連携ということではいいのではないかなということで私は判断いたしました。皆さん、いかがでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： ありがとうございます。そうしましたら、開隆堂の方で、外国語、英語の方は採択することといたします。

新子教育長： それでは保健体育につきまして、事務局大内指導主事よろしくお願いたします。

大内指導主事： それでは、保健体育について説明いたします。保健体育につきましては、全部で4者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。調査員より「4者とも教科書のサイズは同一である」との報告がありました。大修館書店の7ページ上部、きょうの学習をごらんください。学校より「わかりやすい目標・内容になっている」との報告があがってきております。続いて、学研の16ページ上部、学習の目標をご覧ください。柏教研より「各時間の目標を2つずつ違う観点から取り上げていることは良いと思う」との報告がありました。次に「人権の取扱い」についてです。調査員より東京書籍は「全体的に色（カラーユニバーサルデザイン）の使い方が目に優しく、見やすい」との報告があがってきております。大日本図書の38ページ、39ページをご覧ください。調査員より「38ページではLGBTへの配慮がなされている。39ページでは性情報に関する責任ある行動について考えさせられる項目になっている」という趣旨の意見がありました。次に「内容の程度」です。柏教研より大修館書店は「内容の程度としてもほどよい。資料や図が多く、支援を要する生徒も見やすい」。学研は「各章の終わりに『探求しよう』が設けられており、図も見やすく内容も豊富でよかった」との報告がありました。大日本図書について調査員より『学びを生かそう』のページが自由記述になっている構成が多い」という趣旨の意見がありました。次に「組織配列」についてです。学校より東京書籍は「見開きで完結していてわかりやすい」との報告がありました。また調査員より大修館書店、大日本図書、学研の3者は「つかむ、まとめる、振り返るなどの3部構成となっており、課題をつかみやすい」という趣旨の報告があがっております。次に「創意工夫」についてです。調査員より大修館書店は「章のまとめが各單元ごとに構成されており、直接記入できることから、生徒自身でワークと同様の扱いができる。従って、補助ワークの購入等はなくても補える」と意見がありました。また、東京書籍の19ページをご覧ください。「各章の最初に偉人の紹介がされており、ここではジーク・ムント・フロイトですが、道徳との関連項目も紹介されるなど、配慮されている」との報告があがっております。柏教研より学研は「近日あった自然災害を例に挙げているため学習内容が身近に感じわかりやすい」との報告があがっております。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。府の選定資料より4者とも「学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる」との報告がありました。柏教研より大修館書店は「発展的なことを考える問いがあるため学習した時にじっくり考えることができる」との報告があがっております。また、学校より東京書籍は「1時間の学習を通して学んだことを『広げる』の項目でしっかり考え身につけさせることができるつくりになっており、生徒自身に考えさせる時間をとることができるのでよい」との意見があがっております。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。大修館書店の16ページをご覧ください。調査員より『小学校で学習すること』、『高校で学習すること』が紹介されており、繋がりが明確になっている」との報告があがっております。最後に選定委員会の審議について報告します。東京書籍について、パラリンピック、SDGs、エイズ、ストレスに対する記述がある等、人権の視点からはよい、色使いの配慮もある、同じ技師装具士の方が他教科にも出ており、他教科とのつながりがある、という趣旨の

意見がありました。大修館書店は新学習指導要領から始まるがん教育の扱が一番多い、感染症についても6ページと多く扱い網羅されている、体育教育という雑誌を出している体育専門の発行者である、運動が苦手な子どもは体の動かし方を勉強し、運動が得意な子どもはけがの防止を勉強してほしい。その視点からもよい、という趣旨の意見がありました。以上で保健体育についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございました。いかがでしょうか。田中委員お願いします。

田中委員： 全体的に今、説明されたとおりにかと思えます。私の方は部分的なところの観点で見させていただきました。SNS等でインターネット関係のことがいろいろ言われております。またスマホもそうなんですけども、そういう点で見ると東書と大修館ですかね、ここが充実しているかと思えます。また東京書籍については、学習のまとめ、確認問題等もしっかりしていて使いやすい、見やすいかなというふうに思います。また性教育についても詳しく述べているかなと思えます。次に大修館の方は、こちらもまとめの問題が豊富で、説明も分かりやすく使いやすい教科書かなというふうに思います。さきほどのスマホについても充実しているかなと、この二者でいいかなと思えます。

新子教育長： はい、ありがとうございます。山崎委員お願いします。

山崎教育長職務代理： さきほどの事務局の説明にもありましたが、全者とも章のとびらで小学校の学習、この章で学習すること、高校で学習することなどがあります。大変つながりをよくしてあって、わかりやすいなと思えました。また全者とも1時間の授業の流れは、課題、導入もあって課題をつかむ、それから最後にまとめるという課題解決型の学習になって、全者ともしっかり考えさせる授業になっているなと思えました。また章の終わりには章のまとめ、学習のまとめなどがあって大変うまくできているなと思えました。東書、学研、大修館は、確認や活用の問題があります。特に大修館と東書は記述式もあってしっかり学習にもなるなと思えました。それから東書は、中学生は自転車に乗る事が多いと思うのですが、自転車事故に関して5ページにわたって、なかなか詳しく説明がされています。他の会社も自転車事故に関しては載っているのですが、一番東書が多かったように思います。それから大修館ですが、さきほど田中委員からお話がありましたが、スマホについて柏原の場合、現状スマホの所持が多いとか、使用時間が長いとか、いろんな問題がありますが、見直そうスマホの習慣、スマホ首と疲労、ながらスマホに注意、などがあって、しっかり書かれている会社は非常に少ないのですが、大修館は非常にたくさん載っているなと思えました。柏原には適しているかなと思えます。心肺蘇生法、AED、実習も含めてAED、心マッサージ、止血法などなかなかどの会社も詳しく載っておりました。それから大修館の方は、薬物乱用の中でさまざまな薬物が写真入りで一番詳しく説明をされておりました。生徒にとっては勉強になりますが、しかし生徒に中学生にこんな詳しいところまで教えていいのかなというのも、ひとつ感想を持ちましたが、非常に詳しく載っているなと思えました。それから学研の方は、喫煙の害について、巻末の体のつくりの図なのですが、学研と大日本図書が肺の気管支や肺胞まで図示しています。肺がんの説明というか、喫煙の害についての指導は、

これの方が説明しやすいかなと思いました。大日本の方は各章の終わりのまとめの方は、学びを生かそうで自由記述になっています。それから次に重要語句の説明になっていて、まとめや確認としては少し興味を引きにくく、工夫がいるなど、もうちょっと工夫をしたらどうかというのが感想です。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員、お願いします。

西村委員： はい。保健体育の4者とも非常に細かな情報を含めて、多岐に渡って興味深く読みました。東書の方が、東書だけが保健体育という並びになっていたのかなと思うのですが、個人的には保健から入るほうが何となく分かりやすいというのがあったのですが、体育の、保健体育の教科書としてみると、しっかり体を使う、その意図を後から学ぶという意味では、体育保健という並びの方がいいのかなとはちょっと思っていました。特に大修館書店の方が、コラムがたくさん充実していて、字は小さめなのですけれども、配置が分かりやすく工夫されているというふうに思います。非常に読みやすく話題も豊富で、特に感染症の部分が今、話題の事がけっこう詳しく載っていて、必要な知識がタイムリーで教えやすいと感じました。例えば150ページに、大修館書店の特集資料で人類と感染症の終わりなき戦いというのが載っていますが、こんなことまで載せてくれるのだなと思って、非常に興味がわきました。他の会社も地球温暖化のことや変動であるとか探求のこととか、詳しく載っていますが、全体的に流れとしては大修館書店が非常にいい教科書だなと感じました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員、お願いします。

近藤委員： 大修館書店、本文中に色を背景にした小見出しがあるので、内容が把握しやすいです。章のまとめが見開きで分かりやすく、まとまっています。書き込み式なのもいいです。54ページのクローズアップではじめに触れられていて、上手な気遣いの仕方が紹介されています。東京書籍、学習の課題が見やすいところにあります。QRコードで見られる動画が充実していました。止血法やAEDの使い方などは動画の方が詳しいですし、交通事故や防犯のシュミレーションもできるところもありました。以上を候補にあげたいと思います。

新子教育長： はい、ありがとうございます。みなさんのご意見等をいただきましたけども、大修館が比較的、肯定的な意見をいただきました。最終的に私も新学習指導要領の中でがん教育についてという事で、次年度からですけども、もう本市においては今、中学校の方には市立病院から講演の方をいただいております。受講する学校もできております。その中では一番多く扱っていただいているということもございますし、もともと自分も教科が体育なので、ずっと見ておりましたが、ずいぶん昔と変わっておるんですけども、非常に見やすい、それと体育教育という雑誌を私も何度も読ませていただいた、そんなつながりもあって、みなさんからのご意見もいただきましたけれども、大修館の方で思っておりますけども、いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは保健体育の方は大修館でいきます。

新子教育長： 音楽の説明に入る前に皆さま方にお諮りしたいことがございます。音楽の教科書は「一般」と「器楽合奏」に分かれております。本来はこの2種類を別々に採択す

べきところですが、実際の学校での運用の点を考えますと、同一発行者の教科書を採択する方がよいと思われます。よって今回はこの2種目を同時に説明いただきまして、同一の発行者を採択する方向で審議していただきたいのですが、よろしいでしょうか。それでは、事務局から北野指導主事お願いします。

北野指導主事： それでは、音楽（一般・器楽）について説明いたします。音楽につきましては、教育出版、教育芸術社の2者でございます。まず、音楽（一般）について説明いたします。はじめに、「目標、内容の取扱い」についてです。学校からは教育出版について「創作領域では、発達段階に応じた内容選定、学習内容となっており、3年間で深化、完成させる形になっている」。一方、教育芸術社について「学習内容が表現（歌唱・創作）と鑑賞に分けられ、さらにそれぞれの内容と各教材の関連が明記されている」との意見があります。次に「人権の取扱い」についてです。教育出版2・3年上の38ページ、そして巻末をご覧ください。「オーケストラの楽器の挿絵の男女比がバランス良く配置されている」との報告が柏教研からあがっています。また教育芸術社の1年生教科書4ページをご覧ください。調査員からは「1年生教科書の巻頭の『音楽ってなんだろう？～世界をつなぐもの～』のページは、国際理解や差別、偏見なくつながっていく役割を担う音楽という題材が人権学習的にも訴えかけられる」との意見があります。次に「内容の程度」です。教育出版2・3年下の22ページからをご覧ください。「直接書き込みできるページが多く、段階を踏んで細かく指導することにより、より理解を深めることが出来る」との意見が柏教研からあがっています。教育芸術社については、「歌唱（合唱）教材は、生徒にとって歌いやすいものが選定されている」と報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。調査員からは教育出版について「創作教材は、1年次から3年次まで同一テーマで学習を継続し、深化させている」との意見があり、教育芸術社については2・3年下の46ページをご覧ください。「鑑賞分野の『能』では世阿弥の『敦盛』が取り扱われており、社会科との学習と関連付けられる」との意見が調査員と学校からあがっています。次に「創意工夫」についてです。教育芸術社2・3年上52から55ページをご覧ください。「2・3年上のオペラの学習では、総合芸術（舞台・舞台裏含めて）の全体像やスケールをイラストでわかりやすく説明されていて、興味をひき、一目で理解できる」と調査員・学校から意見があがっています。学校からは教育出版について「巻頭ページは共通教材の紹介になっているが、資料や写真、言葉・文章選びがとてもよく、授業でとりあげたい。共通教材の授業の導入や発展的学習として使える。毎時間最初に開いて目につくところなのでインパクトが大切である」といった趣旨の意見があります。次に「補足的な学習・発展的な学習」についてです。教育芸術社について柏教研からは「合唱曲の曲数が多く、選曲しやすい」教育出版について調査員からは「管弦楽器の補充・発展的な学習が一般・器楽ともに相互活用できる」また教育出版1年48ページをご覧ください。「1年生の『六段の調』で鑑賞から楽器演奏にスムーズに移れるように作られて、和楽器にもチャレンジしやすい」という内容の意見が学校からあがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。調査員・学校からは、教育芸術社について「変声初期に合わせた教材が取り入れられ、歌唱面で小学校

からのつながりを持ちやすい」といった意見がある一方で、「小学校の教科書の楽譜・文字の大きさは極端にちがう」といった趣旨の意見がありました。調査員からは教育出版について『ふるさと』は小学校でも学習しており、発達段階に応じて響きに広がりがあるので編曲になっており、長く親しんで歌唱でき、我が国の音楽文化の理解と親しみにつながる」といった趣旨の報告がありました。続いて、音楽（器楽合奏）について説明いたします。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。学校からは、教育出版について「取り組みたい、演奏したい曲がLet's Tryや名曲旋律集で多数とりあげられているのが非常に魅力的」という趣旨の意見があがっています。また教育芸術社の70ページからご覧ください。「打楽器の各奏法が詳しく分かりやすい」との報告が柏教研からあがっています。次に「人権の取扱い」についてです。調査員からは、教育出版は、「巻末のコード表がよりわかりやすい、みやすい書き方となっている」教育芸術社は、「インクルーシブ教育の実現を目指し、支援教育や色覚特性のある生徒への配慮として、紙の色は白を基調にすっきりみやすい紙面となっている」と報告があがっています。次に「内容の程度」です。大阪府の選定資料には、教育出版は、『Let's Play』では、初級から中級向けの合奏、『Let's Try』ではより発展的な合奏を中心に構成されている」、一方、教育芸術社76ページからをご覧ください。「『アンサンブル』では、楽器の種類やリズム伴奏が工夫できるよう構成されている」と書かれています。次に「組織・配列」についてです。調査員からは、教育芸術社について「基本的な奏法から和楽器、アンサンブルなど発展的な要素のものへと学びの発展、成長が俯瞰できるスムーズな配置になっている」という意見があります。同じく調査員からは、教育出版42ページをご覧ください。「『荒城の月』は一般の教科書にも取り扱われているので教科書とリンクして学習を進めることができる」という報告があります。次に「創意工夫」についてです。教育芸術社の巻頭の見開きをご覧ください。調査員、学校からともに「巻頭の『ピアノで語るということ』や各楽器のプロ奏者からの中学生へのメッセージは学習のきっかけともなり、興味関心が持てる内容である」との意見があります。教育出版の42ページをご覧ください。調査員から『荒城の月』は、和楽器の創作ができるようになっている。和楽器の演奏（学習）と創作の学習があわせてできるようになっている」と報告があがっています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。教育出版の26ページと52ページをあわせてご覧ください。調査員からは、「26ページの管楽器の紹介・学習、52ページの弦楽器の紹介・学習は教科書にも取り扱いのあるアルトリコーダーやギターの練習だけでなく、鑑賞もして、管楽器・弦楽器の特徴や音色を知り、比較対照、体感させることで学びが深化する、ねらいと意図をもって学習させられる」と報告があがっています。同じページについて柏教研からは、「『何が同じで、何が違う？』は、それぞれの楽器の共通点や相違点を書き出すことによって、目で見て改めて確認することが出来るので、子どもたちに定着しやすい」との意見があります。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。柏教研からは、教育出版は、「小学校で学習した曲が多くあり、アルトリコーダーの導入に良い」と報告があります。また調査員からは、教育出版は、「小学校で既習の鑑賞曲（木星、さくらさくら、荒城の月）が和楽器や

リコーダーアンサンブルで掲載されており、演奏の喜びを再度味わうことができる。鑑賞と演奏で2度学習でき、知識と体験の両面での学習の深化が期待できる内容となっている」との意見があります。最後に、音楽（一般・器楽）について、選定委員会の審議を報告します。教育出版について、目次に「まなびリンク」が掲載されており、非常に便利に関連する項目が1つのページにまとまっており、動画や音声聞けるという意見がありました。同様の意見は調査員や学校からもあがっています。また市民からの意見でも教育出版の方がリンクが多く、充実しているとの意見があります。鑑賞の教材の中にワークシートのようなまとめのページがあり、学習のねらい、鑑賞のポイントがわかりやすく、良いという意見がありました。教育出版の教材「HEIWAの鐘」は、人権学習、平和学習、総合的な学習と関連付けて学習活動がすすめられるといった趣旨の意見がありました。以上で音楽（一般・器楽）についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございます。一般含めてなんですけども器楽等で。

田中委員： 一般と器楽のほうなんですけども、一般については、それぞれ特色が違うので、なかなかどちらがと選びにくい状況でした。器楽の方を見させてもらおうと、こちらの方がやっぱり生徒にとってわかりやすいというか、学びやすい形になっているかなと思います。最初に言われた巻末のギターコードの表も見開きになってるとか、そういった工夫がされているということと、Let's Play、Let's Tryで学びの順番、段階を追っていけるというふうなところとか、他も含めて器楽の方では、教育出版の方が優れているなと思いました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員お願いいたします。

近藤委員： 教育出版の方ですが、歌と鑑賞のページに色分けがあり、わかりやすいです。先ほどの説明にもありましたが、器楽も含め、一般にも「何が同じで何が違う」のページがあります。学びが深まる内容で書き込み式なのも取り組みやすいです。創作活動では、年々ステップアップしていき、最終的にCMソングが作れるようになります。最後の楽典のページは、パッと見てわかりやすく表してありました。教育芸術社、生徒に馴染みのある曲が多くあります。一般の方で、1年の始めの音楽鑑賞は、ジョーズの映画音楽から始まり、曲の特徴とイメージがわかりやすいです。後の音楽鑑賞の捉え方も違ってきそうです。器楽では打楽器のページが充実しています。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。山崎委員お願いします。

山崎教育長職務代理： 音楽はあまり自信がないんですが、教育出版の方は、今もありましたが、歌う・作る・聞くの分野ごとに色分けをして、分野の順に配列されていて、とても分かりやすいなと思いました。それから、1年生のLet's Tryで「くいしんぼうのラップ」、2.3年下の「音のスケッチ」でCMソングを作ろうで、音楽を身近に感じ、楽しませるものではないかなと思いました。鑑賞の方では、「魔王」シューベルトで教育出版も教育芸術社も出てくるんですが、どちらも出てきますが、教育出版の方がより詳しく心に訴える中身だったなというふうに思いました。それから教育芸術社の方は、目次の次の2ページでこの教科書で学ぶ学習内容として、1年間の学びを俯瞰できるようにしていて、大変わかりやすいなと思いました。指導要領の内容と各教材との

関連を書いている、とても分かりやすいと思いました。それから、教育芸術社の方は、太鼓以外の打楽器について、たくさん紹介されていて、練習のリズムも示されていて、これは教育芸術社さんがいいなと思いました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員お願いいたします。

西村委員： 教育出版は、先ほどから皆さんおっしゃっているように、最初の学びのユニットが音楽の時間って一体何をしているのか途中でわからなくなるような気もするのですが、これはめあてが非常に分かりやすく、教育芸術社の学習内容もわかりやすいですけど、どちらかというと視覚的に見やすい教育出版の方が、子どもたちにもわかりやすいかなと感じました。教育芸術社の方は、ジャンルが広くて興味・関心が広がりやすいというところが、子どもたちの学びの意欲にもつながりやすいかなという印象を受けました。器楽の方ですが、教育出版と教育芸術は展開が違って、教育出版の方が、どちらかというと各論から総論に入って最後に曲をして、教育芸術の方は、最初に総論から各論にいて、また曲が出てくると、ちょっと構成が違うなという感じがしたのですが、取り組みやすさから言えば、教育出版の各論から入っていく方が、実際に動かして行って、小学校からの流れも入りやすいのかなと感じました。学びリンクがついているところも教育出版はいいところだと思いました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。委員の皆さんのご意見、あるいは調査員、学校、選定委員会、今回は、器楽に関しては市民の皆さんからも意見があったということ。同一発行ということでございますので、私の方も聞かせていただいて、教育出版というお声が多かったように思うんですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、教育出版ということで、お願いいたします。

新子教育長： それでは今、3教科終わったのですけれども、10分休憩をとりたいと思います。後ろの時計で40分から再開をしたいと思いますので、暫時休憩とさせていただきます。

新子教育長： 次の技術家庭の説明に入る前に皆さま方にお諮りしたいことがございます。先ほどの音楽と同様に技術家庭の教科書も「技術分野」と「家庭分野」に分かれております。本来はこの2種類を別々に採択すべきところでございますが、先ほどの音楽と同様、実際の学校での運用ということを考えますと、同一の教科書を採択する方がよいと思われれます。よって今回はこの2種目を同時に説明していただき、同一の発行者を採択することとしたいのですが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、北野指導主事よろしく申し上げます。

北野指導主事： それでは、技術・家庭の技術分野と家庭分野について説明いたします。技術・家庭につきましては、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者でございます。まず、技術分野について説明いたします。はじめに、「目標、内容の取扱い」についてです。大阪府の選定資料には、3者とも「技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを学べるよう、適切な内容が取りあげられている。技術によって問題を解決する力を養う内容がとりあげられている」と書かれています。東京書籍26ページ、開隆堂34ページをご覧ください。「他教科のマークが横断的な学習の取り組みを強調している。他教科の

単元名が記載されていて、わかりやすい」という報告が調査員からあがっています。次に「人権の取扱い」についてです。3者とも「マークを使って学習内容が分かりやすく、作業の安全性を高め、技術者としての倫理観の育成を促すようまとめられている」という意見が調査員からあがっています。教育図書について調査員と学校からは「文章量を精選し、文字が大きく読みやすい工夫がある。また写真と説明がマッチしていて分かりやすい」という意見があります。次に「内容の程度」です。調査員からは東京書籍について「各内容の2章では、実習例を通して問題を見出し課題を設定し、それを解決する力の育成を促す内容で構成されている。『TechLab』のページに工具の使用方法や作業手順などの基礎的な技能が取りあげられている」という意見があります。教育図書28ページをご覧ください。「多数の実習例が紹介されていて、一つひとつの作品の製作工程が見開き1ページでわかりやすくイラスト・写真を用いながらまとめられている。基礎的な技能は別冊の『ハンドブック』でまとめられている」という意見があります。しかし、柏教研からは教育図書の「ハンドブックは、実習の時に見るというわけではないので、教科書の各章に入れた方がよい」といった意見があがっています。次に「組織・配列」についてです。調査員からは東京書籍と教育図書について「それぞれの技術の内容が3つの構成でまとめられていて、新学習指導要領で示された『3つの柱』に沿った学習をサポートしている」という報告があります。次に「創意工夫」についてです。調査員からは東京書籍について「『活動』のトピックでは演習だけでなく、対話的な学習を促す内容のものもある。『技術の見方・考え方』などの見出しは、学習指導要領にある文言を使用しているため、ストレートに伝わりわかりやすい」という意見があがっています。教育図書について「本文は全て図や資料とリンクしており、図や資料の通し番号が本文中に記載されていてわかりやすい」という意見があがっています。開隆堂について「右上隅に工具や電子部品が挿絵で紹介されている」という意見があります。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。大阪府の選定資料には、3者とも「2次元コード等があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる」と書かれています。教育図書では「スゴ人」東京書籍では「技術の匠」として「技術者が紹介され、働くことの意義や技術の伝承など新学習指導要領の細かなところまで広く取り上げられている」という報告が調査員からあがっています。東京書籍218ページをご覧ください。「プログラミングのフローチャートの図が分かりやすく、発展的な学習に効果的」との意見が柏教研からあがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。東京書籍・開隆堂は「『小学校』マークにより学習のつながりが強調されている」という意見が調査員からあがっています。また教育図書については「冒頭では、小学校での学習や生活体験を振り返り、巻末では将来の進路選択につながる内容で完結している。小中高の学習のつながりが強調されている」という報告が調査員からあがっています。

続いて、技術・家庭の家庭分野について説明いたします。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。大阪府の選定資料には、3者とも「生活の自立に必要な基礎・基本を本文ページで的確に押さえており、生活で生きる知識及び技能を育む内容が取りあげられてい

る」と書かれています。東京書籍4ページからご覧ください。調査員からは、「図書名の副題『自立と共生』についてガイダンスの図解で説明しており、今までの生活と将来への課題が分かりやすく目標を示している」また「伝統と文化の尊重等、道徳教育との関連が図られている」との意見があります。教育図書127ページ右下をご覧ください。「調理実習の失敗例など実習題材において問題解決学習に適した題材が取りあげられている」との意見があります。次に「人権の取扱い」についてです。調査員からは、3者とも「図やレイアウトの工夫等があり、男女平等、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点が随所にみられる」といった趣旨の意見があります。しかし、開隆堂の24ページについては、「様々な家族の形態について示されており、『両親の離婚』等明記してあることは、本来おさえるべきだが、児童自立支援施設等のある本市としては当事者が多く、教材として取り上げることは慎重にならざるを得ない」といった趣旨の意見が調査員・学校・柏教研ともにあがっています。次に「内容の程度」です。東京書籍について柏教研からは「作業がよくわかる大きな写真が多く、作品例、挿絵、図表などが豊富で生徒の発達段階が考慮されている」との意見があります。東京書籍27ページ下をご覧ください。「ほとんどのページでそのページのまとめにつながる『まとめよう』などが示され、振り返りしやすい」と学校からの意見があります。開隆堂16ページからページ下部にある豆知識をご覧ください。柏教研からは「『豆知識』の中で、専門的な用語などについて簡潔な表現で解説されている」との報告があります。次に「組織・配列」についてです。柏教研からは3者とも「他分野や他教科の学習内容と関連させて学習できるように『リンク』マークなどで示され配慮されている」といった趣旨の意見があります。調査員・学校からは東京書籍について「小学校と高等学校家庭科との系統性や生徒の発達段階を意識して、前半に小学校の学習とかわる内容、後半には高等学校の学習につながる内容を位置付けており、消費生活と環境・家族・幼児・高齢者の内容を後半に位置付けてある」といった趣旨の意見があがっています。次に「創意工夫」についてです。教育図書91から94ページをご覧ください。「4ページが1度に見ることができるよう工夫されており6つの食品群がページをめくることなく全体が把握できるように工夫されている、また献立の例とも対応しており、分かりやすく工夫されている」との意見が調査員からあがっています。開隆堂64ページをご覧ください。「持続可能な社会との関連が各分野で学習した内容と関連の深いSDGsマークがそれぞれ示され、自分の生活へと返しやすくなっている」という意見が柏教研からあがっています。東京書籍について「どの分野にもSDGsとのかかわりが示してあり、全体を通してSDGsを意識することができる。また巻末の『防災・減災手帳』が実際に切り離して使用できるので、各家庭等での話題にできるなど、生徒が主体的に生活の改善に取り組むことができる」といった趣旨の意見が調査員からあがっています。次に「補足的な学習・発展的な学習」についてです。教育図書252ページをご覧ください。柏教研・学校からは「クレジットカードについての説明が詳しく、これからの生活に必要な内容である」といった意見があります。また、教育図書について調査員からは、「実際にグループワークする時に取り組みやすいように、生徒が主体的・対話的に取り組めるワークが充実している」という報告があります。東京書籍167ページをご覧ください。「発

展的な内容にはマークがついており、次に100ページをご覧ください。「章末の『学習のまとめ』に『大切な用語』のページ数が記載されており、復習がしやすくなっている」という意見が調査員からあがっています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。調査員からは東京書籍について「小学校の家庭科を振り返るとともに中学校3年間の見通しを持つことができるように教科書冒頭に家庭分野のガイダンスが設けられており、小学校の内容にかかわる内容については、マークで印がされており、写真で分かりやすくまとめられている」という報告があります。最後に、技術・家庭について、選定委員会の審議を報告します。東京書籍については、技術・家庭において、調査員・柏教研・学校とも肯定的な意見が多いこと、写真と目次のバランスや新学習指導要領の観点を押さえていること、大阪のことがたくさん取り上げていることが良いという意見がありました。またプログラミングのフローチャート、巻末のプログラミング手帳があるのもプラスの点である。防災についてもおさえられており、特に「通電火災」についても言及があるとの意見がありました。教育図書については、文字が大きく読みやすいが、分厚く重いので子どもにとって負担であるという意見がありました。以上で技術・家庭についての説明を終わります。

新子教育長： はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。田中委員をお願いします。

田中委員： 今、大体言っていたとおりでと思うんですが、東京書籍のほうは、全体的に資料も豊富でそれぞれ考えるステップが、うまく構成されているなと思いました。技術の方でまた先ほどの保健体育のところでも注目した所なんですが、技術・情報のところで特にモラルをしっかり今の子どもたちに教えていかなければならないという意味では、ページ数が多く、事例も子どもにとって分かりやすい事例かなと思います。次に教育図書の方も情報モラルあるんですけども、ちょっと少なく、東書が一番多かったかな。家庭科の方でいきますと、東書の方が、「やってみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」という活動のステップを示してあって、それに沿って考えていくというところ、学習のまとめの大切な用語、先ほどの説明がありましたけども、そういったところで自学自習しやすいということもございます。そういう意味では、東書第一候補で教育図書が第二候補かなと思います。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員、お願いします。

近藤委員： 東京書籍、技術の方ですが、近頃、情報分野でよく使われている言葉、最適化について、最初に分かりやすく説明がされています。新しい技術が多く紹介されていて、生徒の関心をひきます。ものづくりを問題解決例としてたくさん紹介されていて、評価・改善・修正までできるようになっています。東京書籍、家庭科の方ですが、調理手順のページがわかりやすいです。消費生活の商品購入シュミレーション活動では、必要性からしっかり検討できるようになっています。技術・家庭科ともに動画コンテンツが充実していました。教育図書です。技術、実習のためのハンドブックがついています。木工品づくりでは、設計の仕方が詳しく親切です。284ページ、最後の方ですが、「先輩からのメッセージ」のページでは、色々な分野の高校に進んだ先輩の紹介があります。進路を考える上で、参考になります。家庭科の方です。12ページ最初の家族・家庭では、「大家さんと僕」「ねことじいちゃん」等、多様な家族が紹介されています。所々に

「センパイに聞こう！」のページがあり、いろいろな人の生き方を知ることができます。技術・家庭とも重要語句が青色になっているのは見やすく感じました。この2つを候補に挙げたいと思います。

新子教育長： はい、ありがとうございます。山崎委員、お願いします。

山崎教育長職務代理： 3者とも1時間の授業の流れは、目標やめあて、調べてみよう、見つけるで課題、キーワードで予想、本文で学んで、最後にまとめようとか、振り返り、ということで、流れがはっきりしてるなど。3者ともまとめて自己評価ができるようになっていました。技術も家庭も随分、ボリュームがあって、しっかり勉強さすなという感想があります。まず東書ですが、技術の東書ですが、各編の最後の学習のまとめ、これはまあ、3者の中で一番よく出来ていると思いました。大切な用語を理解して、チェックもできます。それから、写真や図、資料も多く、丁寧な教科書だと思います。いろんなワークが扱われていて、それぞれの意味が、とてもわかりやすくなっていました。教育図書は、別冊ハンドブックで、各編の基礎技能がまとめられていて、ハンドブックで理解できることもたくさんあるようになっていました。あと本文中に資料1とか資料2という指示があって、通し番号で図や参考資料があるために、ややこしくなりがちなのが、とてもわかりやすくなっているなどと思いました。それから、開隆堂さんは、巻末の携帯電話の利用、こんな時どうする、トラブルに巻き込まれないためにがあって、これは有益だなと思いました。ただ開隆堂さんは、資料などが少ないかなと精選されているなどという感想を持ちました。とてもシンプルだなと、そんな感じでした。それから家庭科ですが、先程のお話にもありましたように、東書の方は、図書名の副題「自立と共生をめざして」4ページから19ページの家庭分野のガイダンスから巻末の家庭分野の学習を終えてまで、自立と共生の視点で学習をさせるという、そういう流れになっていて、随分うまくできているなどと思いました。また巻末の防災・減災手帳は、とても有益で家族で話題にでき、切り離して使用できるところがいいと思いました。教育図書は、この教科書をとおして、課題解決学習を繰り返し学ばせ、自分の課題を見つけ、反省し、改善したり、自分の生活を変えていこうとする姿勢を身に付けさせるように工夫をしているというのが特徴でした。それから開隆堂さんは、これは先ほど事務局からのお話にもありましたが、前回の採択の時もそうでしたが、教育図書さんは、家族関係の変化にさっと、さらっと流す、親の離婚や再婚というちょっとさっと流すだけ、東京書籍は、ありません。ところが開隆堂さんは、随分と積極的に親の再婚、養子縁組、里親、両親の離婚、児童養護施設など積極的に学ばそうとしているわけですけれども、柏原市にとっては、厳しいかなというような感想を持ちました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。西村委員、お願いします。

西村委員： まず、技術分野の方ですが、東京書籍8・9・10ページと見開きのところで、技術の歴史から現代の技術へという流れと技術の見方考え方というのが非常に歴史の変遷、これからの子どもたち含めて、非常に分かりやすく書いてあるなど感じました。振り返りが東書の方が、具体的で資料も多く、技術的なものも詳しいという印象を受けました。教育図書の方は、見出しが見やすくて作って学ぶ、じっくり学ぶ、深めるとい

う流れが、学習内容としてわかりやすいように感じました。生活に密着している内容だとも思いました。比較して開隆堂は、振り返りが抽象的なような印象、情報量も少ないのではないかなという印象がありました。家庭分野のほうですが、流れ的には、東書が食・衣・住、消費生活・家族・家庭となっていて、教育図書、開隆堂さんが、まず家族・家庭から入っていくんですけど、最初に家族・家庭から入るのは、少し中学1年生には、難しくないかなあと感じまして、食・衣・住、身近なところから入る東書さんの方が一番、学習の流れとしてはいいのではないかなと感じました。どの教科書も子育てを巡る現状であるとか、子どもの権利条約などがしっかり盛り込まれていて、開隆堂さんは、最近話題になっている「ネウボラ」という妊娠の時から子どものことに関わっていこうということも取り上げられていて、非常にトピックスは、豊かだなと感じました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。委員の皆さん方のご意見も東京書籍ということが多かったんですけども、小中ともですけども、学習指導要領改訂の中に、プログラミング、これは高校の情報につながっていくということもありまして、フローチャートの図が分かりやすく発展的な学習に効果的であるというご意見もございました。東京書籍さんの方で考えさせてもらうということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

新子教育長： それでは引き続き数学でございます。浅田総括よろしくお願いたします。

浅田指導主事： それでは、数学について説明いたします。数学につきましては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、そして日本文教出版、全部で7者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。大阪府の選定資料には、全者について「数学科の目標を達成するために、適切な内容がとりあげられている。数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている、また、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている」という趣旨のことが書かれています。柏教研からは、東京書籍について「各章の導入やまとめに日常生活とのつながりがある問いが多々用いられている」、大日本図書について「めあてが書いてあり、本時の目標を生徒がイメージしやすい」という意見があります。また学校からは、数研出版について「各問の計算問題が多く、反復連絡させやすい」「解き方の解説が丁寧に書かれている」、日本文教出版について「問題数が適量である」という意見があります。次に「人権の取扱い」についてです。学校からは、学校図書について「SDGsに触れるなど、世界規模での人権的な見方に触れようとしている」という意見があります。柏教研からは、日本文教出版について「視覚的な配慮がされている。目に優しい色だったり、色覚まで考えられている」という意見があります。次に「内容の程度」についてです。調査員より、東京書籍、大日本図書、数研出版、日本文教出版について「問題数も内容も適切である」、学校図書、教育出版、啓林館について「問題数は適切である」との報告があがっています。次に「組織・配列」についてです。調査員より、大日本図書、学校図書、教育出版、数研出版及び日本文教出版について「中3、2次方程式の解き方『因数分解→平方根→解の公式』が生徒にとって理解しやすい」との報告がありました。一方、東京

書籍及び啓林館について「中3、方程式の解き方『平方根→解の公式→因数分解』等いくつかの箇所では他者や従来通りとの違いがある」という趣旨の報告がありました。3年生の教科書全者の該当ページに付箋を付けております。手に取ってご確認ください。(大日本図書P82～88、学校図書P79～86、教育出版P84～88、数研出版P76～85、そして日本文教出版72～76をご覧になりご確認ください。東京書籍P74～82、啓林館P68～75)次に「創意工夫」についてです。大阪府の選定資料には、全者について「生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている」という趣旨のことが書かれています。東京書籍について1、2、3年生のそれぞれの巻末をご覧ください。調査員より「各学年の教科書の一番最後のところに、前学年のまとめと、本学年のまとめが掲載されている」との報告があがっています。大日本図書について調査員より「付録として、各学年の単元毎のまとめがつけてある」との報告があがっています。学校図書について調査員より「背表紙裏がホワイトボード仕様になっている」との報告があがっております。啓林館について1、2、3年生を手にとってご覧ください。調査員より「教科書自体が2部構成になっている(『自分から学ぼう』)」という報告があがっております。数研出版について柏教研からは「デジタルコンテンツが充実している」「要点が細かく解説されており、ポイント毎にまとめられ、とても見やすい」「具体物を教材化している」との意見があります。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。大阪府の選定資料には、全者について「単元末や巻末に、補充問題等が設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、学習に役立つ情報を資料やデジタルコンテンツでみることができる」という趣旨のことが書かれています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。数研出版2年生P124をご覧ください。調査員より「小学校の学びから、三角形の合同条件へつなげている」と言う意見があります。また、「その単元がどの学年のどこにつながっているかの関連づけてまとめられており、中1の教科書では小学校の内容とあわせての振り返りになっていた」との報告があがっています。柏教研より、数研出版について「算数とのつながりもわかる。何より高校数学へのスムーズな移行が可能である」との意見があります。柏教研及び学校より、日本文教出版について「小学校での内容を丁寧にまとめていて、生徒が復習しやすい」との意見があります。

最後に、選定委員会での意見についてです。「柏原市の数学の位置付けは小学校との連携ならば日本文教出版、啓林館。高校を見据えるのならば数研出版。数研出版は自分で勉強する力を伸ばすのに向いた教科書だと思う」「数研出版の良い点として別冊の探求ノートがある。自学自習の力をつけるのに良い。」との意見がありました。また、「塾に行かなくても学べる教科書がよい。わかりやすそうだと感じたのは学校図書。」「自分で勉強するなら学校図書もわかりやすい。」との意見がありました。以上で数学についての説明を終わります。

新子教育長： ありがとうございます。いかがでしょうか。

山崎教育長代理： 比べられるかなと思い、日文と啓林と数研と3つ、1年の最初の部分

で比べてみました。数研と啓林は正の数と負の数の加法減法で、整数の計算の後で小数や分数の計算が出てきます。これは、整数と同じで分数や小数の加法減法ができるはずだという発想ででてくるのですが、日文は全部終わった後、いろいろな計算で、発展のようなかたちでてきます。それから、正の数負の数の乗法除法では、数研と啓林は小数を含む乗除、掛け算割り算が、整数の計算の後、普通に出てきますが、やはり日文は、本文にはなくて、章末の「取り組んでみよう」で掛け算だけがでてきます。割り算が出てきません。こういったことから、日文は言われているように、ずいぶん易しいというか、丁寧な教科書だなと思いました。一方、数研と啓林は、基礎から順々に難しくしていったという風に思いました。啓林の方は、事務局の話もありましたが、前の方は「みんなで学ぼう編」の本編、後ろからは「自分で学ぼう編」の2部になっています。「自分で学ぼう編」は小学校からのふりかえりと、1章から7章の学習をした後の「力をつけよう」そして「学びを生かそう」、復習としても宿題としてもできる。解答も付いています。また、「力をつけよう」には、公立高校の入試問題なども載せて、興味を引くなと思いました。章末の問題として「学びを確かめよう」「学びを見つけよう」4ページしっかりあります。学びを確かめようではわからないとき、そのページに戻って復習できるように示してあります。また、巻末にももっと勉強しようという問題があり、随分計算練習ができる。数研出版は、本冊と別冊がある。別冊は探究課題で考えさせ、話し合いワークシートで活動、学びを発展させる。章の前に振り返りがあり、章の終わりには確認問題、発展問題があり工夫されている。生徒が授業の流れがわかりやすくなるように、吹き出しの会話方式のヒントがあり見通しを立てるのに役立つ。巻末の数学旅行で数学の楽しさを、チャレンジ編でたくさんの練習問題を、1年、2年、3年間のまとめがあります。しっかり勉強させる教科書と感じた。日文は随分丁寧で易しい教科書、巻末に小学校算数の確かめ問題、補充問題がある。いい所もあるがちょっと易しい思う。学図は節や章の終わりに確かめよう計算をまとめよう、基本応用活用深めよう、たくさんの練習問題がある。自己評価ができる欄があり、練習問題が充実してるが、巻末は練習問題は少なく、さらなる数学へ共同学習のページが充実していて、練習問題は少なくなっている。東書は目次に関連する小学校の学習を明記し、各章の表紙にここで学ぶ目次があって見通しを持ちやすくなっている。中1に0章として「算数から数学へ」という章ができた。巻頭と合わせて、ノートの作り方取り方もでていて丁寧な教科書と感じた。巻末に深い学びを振り返る、大切にしたい見方考え方思考力表現力を高める数学の自由研究、あるいは練習問題として補充の問題があって、随分自習がよくできると感じた。教育出版は章の入り口で既習の確認でゆったりと導入のページをとって考えたり話し合ったりさせるようになっていた。大日本は各章の終わりに活用探究のページがあって数学の活用応用があって数学が好きになるように工夫されている。巻末の課題学習小学校の振り返り、1年の復習、1・2年の復習、補充問題、総合問題も巻末でしっかり復習できると感じた。

田中委員： 東京書籍は問題も多くて深い学びの振り返りで工夫されている。学図は証明の仕方が一番すっきりしてまとめられている。説明や色合い取り組みやすさ見やすさは

よかった。啓林は2巻に分かれている、長所も短所も両方ある。数研は、高校へ数研、小学校は啓林という評価もあって、高校へ繋がる部分もある。日文が一番取り組みやすいが、逆に易しいめあてが提示されている。どういう風に考えていくかうまく説明している。

近藤委員： 日本文教出版、計算問題では例題が多く、考え方・問の表示がわかりやすいです。3年生最後の応用問題ステップアップは解説や解答例が詳しく、一人でも取り組みやすいです。数研出版、生徒や先生の会話文による解説は文が長いよりもわかりやすいです。ところどころノートを取るときの注意点が抑えてあります。別冊があり、教科書から離れるので気分が変わる点が良いです。学校図書、解答例がノートが書きふうで分かりやすく、参考になります。各学年図形の部分では、右上にパラパラマンガがあります。2年生では外角の和、3年生では三平方の定理、理解しやすいし、印象に残ります。

西村委員： 啓林館、巻末の2部構成は取り組みやすい気もするが、やはり使いにくい。全体的に3年生の関数と標語のところを各者比べてみた。一番簡潔で明快なのは数研。啓林館は数式で表していて少し捉えにくい。日文は、解答例があってわかりやすいが文章が長め。学図は系統だっていて非常に数学として進めやすい。全体的には数研か日文と感じた。

新子教育長： それぞれの説明をいただきましたが、数研では算数とのつながりがわかる。高校へのスムーズな移行。理想の探究ノートで自学自習で力をつけさせるのは良い等々がある。他にも計算も多い、反復もさせやすい。ということが、選定委員会でもお話をいただいております。よって数研出版で考えさせていただきたい。

委員全員： はい。

新子教育長： それでは国語、湯浅指導主事お願いします。

湯浅指導主事： それでは、国語について説明いたします。国語につきましては、全部で4者でございます。まず、「目標、内容の取扱い」についてです。光村図書1年生の教科書28ページをご覧ください。柏教研からは「学習の見通しと、つけたい力が明確に示されている」との意見が出ています。同じく、1年生の教科書300ページをご覧ください。調査員からは「語彙力を増やす資料が充実している」との報告があがっています。次に、三省堂について、大阪府選定資料では「読むこと（古典）」の取扱いが3学年分で17箇所、86ページとなっています。次に「人権の取扱い」についてです。光村図書1年生の教科書の裏表紙をご覧ください。調査員からは「本文には、特別にデザインされた光村明朝体を用いている。美しく読みやすいだけでなく、画数や点画の形などは手書き文字と齟齬のないよう配慮しており、生徒の学習負担を軽減できる。漢字の読み仮名や読書案内などの小さな文字は、ユニバーサルデザインの観点から見やすさ・読みやすさを追求して作られたUDフォントを用いて視認性を高めている」との報告があり、学校からも同様の意見があがっています。次に「内容の程度」です。光村図書について、大阪府の選定資料では「『これから』の生き方について語り合う題材が取りあげられている」と書かれています。次に、教育出版について柏教研からは「『学ぶ力』『なぜ物語が

必要なのか』といった国語の学びの本質に迫る教材が掲載されている」との意見があがっています。次に「組織・配列」についてです。東京書籍1年生の教科書225ページをご覧ください。調査員からは「『基礎編』は『学びを支える言葉の力』『文法解説』がひとまとまりになっている」との報告があがっています。次に「創意工夫」についてです。三省堂3年生の教科書40ページをご覧ください。調査員からは「国語の『学び方』が学習できる工夫がある。特に、各学年の初めの説明文の前にはプレ教材があり学習しやすい」との報告があがっています。また、大阪府の選定資料には「多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、3年『批判的に読む』では、文章を読む観点を学習した後、評論文『間の文化』を読み、その後図表や資料を使い条件に応じて文章を書く活動、交流を通して考えを深める活動、学びを振り返る活動が取り扱われている」と書かれています。次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。光村図書2年生の教科書82ページをご覧ください。調査員からは「『読書を楽しむ』では読書教材が豊富に紹介されている」との報告があがっています。また学校からも「中学生が読書を広げられそうな作家の作品がのっている」との意見がでています。次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。教育出版1年生の教科書16ページと、3年生の教科書262ページをご覧ください。調査員からは「小学校、高校との連携がされている」という報告があがっています。次に、東京書籍について、調査員からは「中1ギャップへの配慮がある」との報告があがっています。最後に選定委員会の審議について報告します。まず、光村図書、三省堂、教育出版について、めあてがはっきり書かれているとの意見がありました。光村図書について、いろいろな作家の作品が掲載されており、バランスが良いとの意見がありました。また、小学校からの系統性が保たれており、言語活動に力を入れているとの意見がありました。また、三省堂について、新学習指導要領に対応した学びを進めていくのに適しているとの意見がありました。以上で国語についての説明を終わります。

新子教育長： はい。ありがとうございました。いかがでしょうか。

山崎教育長職務代理： 光村図書ですが、中1になったら、是非国語の教科書を開いてほしい。小学校と違うという実感を生徒に持ってもらいたいと思います。巻頭に「学習の見通しを持とう」で1年間の教材とどんな学習をし、どんな力をつけるか、大変わかりやすく説明がされています。また、言葉と出会うためには、音読、発表、学習の記録、辞典の使い方、気になる言葉を書き留めるなど、中学校での学習の仕方を丁寧にまとめていて、大変よくできているなと思いました。單元ごとに、教材の後ろに「学習」というのがあって、学習の仕方を示してわかりやすくなっています。また「学習の窓」も、学習のポイントをおさえていて、随分わかりやすいなと思いました。「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」では、読書のための本がたくさん紹介され、一年では吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるか」もあります。随分充実しているなと思いました。中学校を卒業する時には、どの子も漢字の読み書きができるようになってほしいと思います。1年、2年で小学校6年生で学習した漢字を丁寧に5ページにわたって載せています。是非何回も書いて、生徒たちには漢字を勉強してほしいなと思いました。三省堂ですが、

各教材の後ろに「学びの道しるべ」があって、これも学習の仕方を示していて大変わかりやすくなっているなと思いました。「読書のすすめ」については、巻末に「読書の広場」として図書を紹介していました。古文で「古事記」もあって、大変興味深いなと思いました。巻頭に「領域別教材一覧」というのが6ページにわたってあるのですが、つけたい力を確かめるようにということで作られた部分だと思うのですが、ちょっとごちゃごちゃしていてわかりにくいなというふうに思いました。それから東書ですが、教材ごとに導入の問いがあり、教材の後に手引きがあって、学習目標や学習の方法が示されていて、1時間の授業が随分わかりやすくなっているなと思いました。それから先ほども事務局の説明にありましたが、各教材に「学びの扉」「文法の窓」が学習として出てくるのが、これらが教科書の後ろのほうの「基礎編」の中に「学びを支える言葉の力」「文法解説」としてひとまとまりになって詳しく出てきます。予習復習ならいいと思いますが、授業時間内でやると、時間がかかり過ぎるかなという心配をします。教育出版ですが、小倉百人一首がすべて取り上げられていて、これも興味深いなと思いました。それから巻頭に「言葉の地図」というのがあって、学ぶ内容とつけたい力を確かめるようになっているわけですが、これも先ほどと同じで、ちょっとごちゃごちゃしてわかりにくいなという感じがします。それから、学校からも出ていましたが、1年生の16ページ「文学入門」に「文学作品に用いられている言葉は嘘をつく言葉です」ということが出てくるのですが、嘘をつく言葉というのは文学作品であまり見たことがないなと思います。虚構とか、フィクションとか、こんな言葉で十分で、嘘をつく言葉というのは言い過ぎかなと、教科書に親しまないのではないかという感想を持ちました。以上です。

田中委員： それぞれ特徴があるのですけれども、全体的に総合的に光村がいろいろなジャンル、いろいろな課題のジャンルがあって、生徒としても楽しく学んでいけそうな感じがします。どの学年も分量、内容的確であるし、また先ほども出てきましたが「学習の見通しを持とう」とか、「学習」「学習の窓」こういったことで学びを進めていきやすいなと思います。また、漢字に親しもうということで復習にも優れているのではないかなというふうに思います。全体的によく整理されているのは光村かなと思います。

近藤委員： 三省堂、「読み方を学ぼう」のページがあります。わかりやすく整理されています。詩や和歌などのページは活字が大きく、シンプルで見やすいです。光村図書、山崎委員もおっしゃったように、1年生の最初には小学校から中学校へとした導入部分があります。小学校で親しんだ工藤直子さんの詩やノートの活用法などで、明るくスタートできそうです。読む教材の後の学習がわかりやすいです。「季節のしおり」のページや巻末の「言葉を味わう」では、日本語の豊かさを感じることができます。以上の2つを候補に挙げたいと思います。

西村委員： 東京書籍ですが「学びを支える言葉の力」というのが最後のほうにあるのが、これだけを読むとわかりやすのですが、これを交えながら授業をするのは、おっしゃったように少し難しい面もあるのかなとは感じました。あと、読む題材のところが2段になっているのは少し読みにくく感じました。三省堂ですが、字体そのものが少し大きいとはいえ、読みにくいように感じました。「読書の広場」はいろいろな本が紹介してあっ

てすごくよいと思いました。教育出版ですが、初めにナビがあって、本文から道しるべという流れはわかりやすかったのですが、少し取り上げられている話題が偏っていないかということが少し気になりました。光村図書ですが、学習を広げるということで、1年生から「思考の地図」というのがあるのですが、これは思考を広げる、整理する、ためるというので、学び、対話するという点では、マッピングであったりブレインストーミングであったりというのが載っていて、3年間通して使える題材では非常に視覚的にわかりやすくして好印象を持ちました。字体も小学校から読み慣れた字体で、光村図書は非常にいい教科書ではないかと感じました。以上です。

新子教育長： はい。ありがとうございます。委員のみなさんからは、光村図書、三省堂というのは肯定的に中身を精査していただいてのご発言であったと思います。選定委員会等からも光村というのは挙がっておりますので、光村図書のほうでよろしいでしょうか。

委員全員： はい。

新子教育長： はい。ありがとうございます。以上で10教科16種目すべての教科書について、審議を終えることができました。事務局より確認をお願いします。

石田課長： はい。失礼いたします。それでは、本日の選定されましたものから順番に確認させていただきます。英語、開隆堂。保健体育、大修館書店。音楽、一般・器楽ともに教育出版。技術・家庭ともに東京書籍。数学、数研出版。国語、光村図書で間違いないでしょうか。

石田指導課長： それではあわせて、前回のものを確認させていただきます。書写、三省堂。社会、地理は東京書籍。社会、歴史は教育出版。社会、公民は東京書籍。地図、帝国書院。理科、啓林館。美術、光村図書。道徳、廣済堂あかつき。

石田指導課長： 以上で間違いないでしょうか。

委員全員： はい。

石田指導課長： 以上でございます。

新子教育長： はい。ありがとうございます。それでは、議案第34号「令和3年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について」の議事を終了いたします。長時間に渡りありがとうございます。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員